

ウマチー

ウマチーという言葉を知ることがありますか？

ウマチーとは、麦や稲の豊作祈願となる農耕儀礼

(祭り)のことを指します。

旧暦2月15日頃に行われる二月ウマチー(麦穂祭)は、麦の豊作を祈願する行事で、初穂を供え、人々の健康と繁栄を感謝していました。また、麦の収穫を祝う三月ウマチー(麦大祭)は、豊作への感謝を示したと考えられます。1713年に王府が編さんした『琉球国由来記』には、琉球社会の文化や風習が記されているのですが、恩納間切では二月ウマチー、三月ウマチーに関する記載がほぼ見当たりません。これは

麦作があまり盛んではなかったことに関係していると考えられます。

そして五月ウマチー、六月ウマチーは「稲」に関する儀礼となっています。かつては村内各地で行われていた稲作も、現在は安富祖のみとなりましたが、いくつかの地域でウマチーが継承されています。

【五月ウマチー】

旧暦5月15日頃に行われる五月ウマチー(稲穂祭)は、稲



富着の神酒作り(2023年)

の順調な成長を祈り、豊作を祈願する初穂儀礼です。『琉球国由来記』にも、恩納間切でのウマチー供物が記されています。そのほか富着や瀬良垣では「四月朔日ヨリ、五月中、山留也」とあり、この時期は山に入つての農作業が禁止されていたことがわかります。『とよむあふす』によると、稲が実る大事な時期なので、稲を驚かさないように放歌、鳴物、大声を出すことを禁じていたそうです。

谷茶、富着、前兼久、仲泊はもともと同じ集落であったと伝わっており、祭祀は山田ノロが執り行っていました。山田ノロを富着の神アサギへお連れするため、舟で迎える際は、前兼久と仲泊から達者な漕ぎ手が選出されたそうです。

山田ノロがいなくなった現在でも、4区の区長と有志の方が富着に集い、ウマチーが継承されています。現在、ウマチーで使用する「神酒」は

富着婦人会の方が作っており、柔らかめに炊いたご飯に、石臼でひいた米粉と小麦粉を練り込んで発酵させ、3日がかりで完成させます。一通りの祭祀が終わると、谷茶、前兼久、仲泊の3区長も神酒を二升ずつ受け取り、地域で振る舞われています。

『真栄田誌』によると、「稲作農家がないため、豊作に感謝する祭りから、日頃の守護に対する感謝と人々の健康を祈願する祭りになつてい



富着区長より各区長へ神酒の配布(2012年)